

平成30年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、豊栄図書館が重点的に取り組んだ事業。

シート No.1

中心図書館名: 豊栄図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果(確定値)	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数(所蔵調査件数を含む)は目標を上回った。 ○レファレンス件数 7,588件	・レファレンスや所蔵調査の件数が増加した。広報誌や館内掲示等でのPRに努めたことが実を結んだ。 ・レファレンスを迅速に対応できるよう専門研修等に参加し、職員のスキルアップに努めた。	3 大変評価する。6(67%) 2 ある程度評価する。3(33%) 1 評価できない。0(0%)	・レファレンスの評価の対象は、件数ではなくその内容及び情報提供の結果が評価されるべき。委託業者が職員を呼びに行く時間がかかるので、レファレンス担当の職員が常時いればよい。 ・まだまだ利用者にはなじみがない。さらに周知が必要。 ・レファレンス機能の充実を図った結果、利用増加につながった点は評価できる。今後の継続を望む。 ・担当者への引継ぎや回答までの速度アップが行われた。1人1人の利用者のレファレンスに熱心に対応している。資料検索をさらに利用しやすくすることを期待する。
	◆館の重点評価項目 多様な利用に応じた図書館サービスの提供	・公民館・関係機関等との連携及び資料提供を行う。	・北区図書館では、公民館・関係機関等の事業に合作して連携及び図書館資料提供を行った。 歴史講座 ゆりかご学級 とよさか発異文化への旅 北地区公民館各種イベント ビュー福島潟各種イベント 各種展示 他	・図書館に隣接する地区公民館の他、ビュー福島潟や北区郷土博物館等といった、より幅広い組織との連携を図ることができた。今後も、図書資料の提供を行い、読書活動の振興や図書館利用のPRを行う。	3 大変評価する。7(78%) 2 ある程度評価する。2(22%) 1 評価できない。0(0%)	・各イベントに図書館が貢献している事が一般参加者見えない。それらのイベントで図書館利用促進をしていく事があっても良いのではないかと。 ・今後も事業の中身や興行の拡大を。 ・周辺施設との連携を進め、有用度を高めて欲しい。 ・公民館等、幅広い組織との連携強化の取り組みは大変評価する。幅広い年代層へのPRを続けて欲しい。 ・ビュー福島潟や北区郷土博物館と連携した企画では、双方の魅力をより多くの人に伝える良い機会となった。講座・展示ともに素晴らしい内容だった。北区の魅力発信として継続して欲しい。区だよりによる広報も充実した。
特色ある地域づくり型図書館	◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・北区を中心とした郷土資料、行政資料の収集に努めた。豊栄図書館では福島潟関連資料、松浜図書館では水俣病(熊本含む)関連資料の収集に力を入れている。 ○H28年度蔵書冊数 11,680冊 ○H29年度蔵書冊数 11,997冊 ○H30年度蔵書冊数 12,334冊	・地元出版社の郷土資料を積極的に収集した結果、利用は堅調に推移している。今後も、事業の関連展示等で活用し、隠された魅力に光を当てることで利用増につなげたい。 ・調査・相談業務のうち、郷土に関する事柄は大きな割合を占めている。行政資料も含め、今後も有用性を判断しながら収集・整理を進める。	3 大変評価する。5(56%) 2 ある程度評価する。4(44%) 1 評価できない。0(0%)	・郷土資料について、もっと広報を工夫して情報提供すべき。年に数回、1階に展示する。 ・地道な活動であるが、地域に根差した図書館の独自性が発揮できる分野であり、さらなる充実を望む。 ・学校教育・社会教育において、郷土資料の活用はとても重要。郷土愛を育むための地域学(歴史・文化・自然)に関する知のプール(学べる場)であることについての情報発信を期待する。
	◆館の重点評価項目 地域の声を反映した図書館運営	・図書館協議会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・図書館協議会を年2回開催 第1回 平成30年7月9日(月) 第2回 平成30年11月14日(水) ・「図書館へのたより」受理件数 5件	・図書館協議会で委員の皆様から忌憚のない意見をいただくことができた。 ○地区図書室のあり方 ○広告事業等 ・「図書館へのたより」など利用者の意見をできるだけ尊重し、改善できるものは改善した。 ○利用者への対応等	3 大変評価する。2(22%) 2 ある程度評価する。7(78%) 1 評価できない。0(0%)	・図書館への意見を言う機会が少ないので、協議会の回数を増やし身近な問題を取り上げることが大切。 ・協議会委員について、地元住民の意見を反映できる人選が望ましいと考える。 ・会議の大半が説明。資料が大変充実している。意見交換の時間は限られているが、地域の声を聞ける場となっている。
子ども・社会・読書融合型図書館	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく(家読)を推進する。	・ブックスタート事業 443人に実施 参加率約94.9% ・うちどく(家読)読書ノートの配布点数 697点(ぬりえ含む)	・ブックスタート事業では乳幼児期から読書が身近に感じられるきっかけづくりを継続している。保護者からは好意的な意見が聞かれ、約95%の参加率となっている。 ・うちどく(家読)読書ノートの配布回数を年4回に増やした。学校図書館訪問時にうちどく(家読)普及への協力を依頼し、子育て世代の親子も土日を中心に多く図書館を利用している。	3 大変評価する。8(89%) 2 ある程度評価する。1(11%) 1 評価できない。0(0%)	・ブックスタート事業は、1歳誕生歯科検診だけでなく、入園時(3歳児歯科検診)でも行ってもらいたい。 ・ブックスタート事業の実施率の高さは素晴らしい。「うちどく読書ノート」のように、子育て世代の親子が親しみを持って来館できるようなアイデアをこれからも取り入れて欲しい。 ・事業の実施による大きな効果を望む。 ・職員・ボランティアの活動にはお礼を言いたい。ボランティアには交通費などの支援をしては。 ・ブックスタート事業の参加率の高さは、児童健全育成における図書館の果たす機能として素晴らしい実践である。今後もぜひ継続して欲しい。 ・親子のふれあいのきっかけとして、図書館利用のきっかけとして、充実した内容で継続されている。 ・赤ちゃんタイムが好評。広報によるPRでさらに周知を。事業の継続を切に望む。
	◆館の重点評価項目 学校図書館支援センター事業 子どもの読書活動推進につながる事業等の実施	・学校図書館支援センターが、学校・地域・関係機関と連携し、学校図書館の活用がさらに活性化されるよう取り組みを進める。 ・職員・ボランティアによる「おはなしのじかん」をはじめとする各種事業等の実施。	・学校図書館支援センターによる学校図書館訪問(81回)及び相談対応(473件)等を実施した。 ・おはなしのじかん(職員・ボランティア)、わらべうたのじかん、夏休み事業(一日子ども図書館員)を実施した。 ○おはなしのじかん参加者数 627名 ○わらべうたのじかん参加者数 30名 ○一日子ども図書館員参加者数 12名	・各種支援により、学校図書館は着実に「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を増していると考える。 ・おはなしのじかん、わらべうたのじかんなど参加者には好評。参加者数は豊栄図書館の0-2歳児向けが増加しているものの、全体的に減少傾向。広報誌等でのPRを継続する。	3 大変評価する。7(78%) 2 ある程度評価する。2(22%) 1 評価できない。0(0%)	・学校図書館司書の意識が近年とても高まってきていると感じる。それに伴い生徒達の本に対する自主性や意識も高くなってきている。 ・図書館内での「おはなしのじかん」はどのグループも人集めに苦労している。何らかの工夫が必要。 ・わらべうたは、子どもの遊びから忘れかけられているのではないかとと思うので、大いにPRして欲しい。 ・学校図書館支援センターによる学校への支援は非常に充実しており、児童生徒の健全育成に貢献している。協議会への提出資料がわかりやすく、実施状況が理解しやすかった。 ・おはなしのじかん(0-2歳向け)の増加は良い。ブックスタートの効果もある。絵本を大人も楽しめる機会があるか。PRとともに可能であれば講座も行ってほしい。
市民参画と協働型図書館	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・ボランティアとの協働の取組実施 おはなしのじかん、春のおはなしリレー、夏のおはなし会、夏のふしぎなおはなし会、夏のスペシャルおはなし会、冬のおはなし会、冬のふしぎなおはなし会、冬のスペシャルおはなし会、わくわく体験夏まつり、石塚さんの昔ばなしを楽しむ会、大人のためのおはなし会、わくわく読書会、小さな朗読会 ○ボランティア活動者数 249名	・ボランティア団体との協働は予定どおりに実施でき、共催事業は定着している。参加者からもおおむね好評。 ・書架整理・資料修理等は堅調に推移している。今後も、広報等でボランティア活動全体の活性化を図りたい。	3 大変評価する。7(78%) 2 ある程度評価する。1(11%) 1 評価できない。1(11%)	・「春のおはなしリレー」に関しては、図書館からの呼びかけにも関わらずボランティアグループ間の意識を高めるようにはなっていないように思う。 ・朗読会は図書館職員が参加するのではなく、もっと中高生や一般の人から広く出てもらう努力をすべき。 ・ボランティア団体の協働については、継続性が重要であり、定着に向けた努力を評価する。 ・読書会等の関連図書紹介(ブックトーク)の内容が充実し、参加者に大変好評だった。広報による情報発信の充実を期待する。
	◆館の重点評価項目 ボランティア養成講座の実施 ボランティア交流会の実施	・ブックスタートボランティア養成講座と、読み聞かせボランティア入門講座を実施する。 ・ボランティア交流会を実施する。	・ブックスタートボランティア養成講座(一部他区と合同)参加者数 4名 ・読み聞かせボランティア入門講座 参加者数 4名 ・ボランティア交流会 参加団体数 5団体	・ブックスタートボランティア養成講座、読み聞かせボランティア入門講座を実施した。講座については、今後他区とも調整しながら開催を検討し、ボランティアの裾野を広げて行きたい。	3 大変評価する。5(56%) 2 ある程度評価する。3(33%) 1 評価できない。1(11%)	・ボランティア交流会では実際に活動している人たちの意見がもっと活発に交換されるように会のあり方を考えて欲しい。 ・さまざまな講座の開催は、受講者がボランティアに興味や関心を持ち意欲が高まると思うので、今後も実施して欲しい。 ・活動の中で、個々のボランティアの顔が見えにくい。 ・ボランティアをしたいと思っても、敷居が高く参加をためらっている人がいる。 ・ボランティア養成については、ぜひ地区との共催など広域的な視点で裾野を広げる努力を行ってほしい。 ・ボランティア活動の振り返りや、資質向上のための講座の充実と継続に大変満足している。